

～第17回日本認知症ケア学会大会での発表について～

ベネッセ シニア・介護研究所

「有料老人ホーム入居者家族の介護に対する意識調査」分析結果のご報告

株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンクであるベネッセ シニア・介護研究所は、2016年6月4日、5日に開催された第17回日本認知症ケア学会大会において、2015年9月に実施いたしました「有料老人ホーム入居者家族の介護に対する意識調査」の分析結果を発表いたしました。

発表の概要は以下の通りです。

◆ 全般的な傾向

- ・ 認知症の方が周りにいる方といない方では、老人ホームへの入居に対する入居前後の印象や入居後の生活に生じた変化に差は見られなかった。
- ・ 一方、認知症の方が周りにいる方の方が、より多く悩み、さまざまなことを考えていることが示唆された。

◆ 結果①入居前の意識

- ・ 入居に対して全体の約3分の2が良い印象であった一方、3割近くの方が悪い印象を持っていた。
- ・ 入居検討の際には、認知症の方が周りにいる方が多くの悩みを抱えていた。
- ・ 中でも環境変化による状態の悪化や精神不安、利用者本人の強い抵抗、家族以外の介護への抵抗・罪悪感について悩んだ方が多かった。

◆ 結果②入居後の意識

- ・ 入居が悪い選択だったという人は1%に満たず、印象は全般的に好転した。
- ・ 印象の好転の理由として、スタッフの良い対応や本人の様子（笑顔が増えた、状態が改善した等）、安心が得られたなどが挙げられていたが、認知症の方が周りにいる方がその傾向が強かった。

◆ 結果③介護全般に関する意見

- ・ 事前に関心があった情報、入居検討時の心の支え、介護に対する向き合い方などの自由記述においては、認知症の方が周りにいる方の方が回答率が高かった。
- ・ 介護に対する向き合い方においては、「助けを得ること」「入居者への関わり方」「介護者・家族の行動面／精神面の心構え」「回答者自身が経験した困難」などで、認知症の方が周りにいる方から多くの意見が寄せられたが、その具体的な内容は認知症に関わりの深いものが多かった。

◆ 本調査より得られた示唆

- ・ 認知症の方が周りにいる方が、認知症ならではの悩みなど、多くの悩みを抱えていることから、今後、介護事業者から、認知症の方の介護に関するいっそうの情報発信が求められる。

福田亮子¹⁾, 寺田響²⁾, 中原達俊²⁾, 奥村太作¹⁾, 新井幸子¹⁾, 猪又玲奈¹⁾, 小森由美子¹⁾, 滝山真也¹⁾

1) ベネッセ シニア・介護研究所 2) (株)ベネッセスタイルケア マーケティング本部

背景

介護のニーズは年々高まっているものの、具体的な介護サービスの内容についてはあまり知られておらず、実際に介護が必要になった際、どうしたら良いかわからず困る人が多いのが現状である。介護サービス利用者の意識を明らかにすることにより、サービス利用を検討している人への情報提供に寄与することができると考えられる。

目的

有料老人ホーム入居者家族の入居前後の介護に対する意識を明らかにする。認知症の方が周り(家族・親戚、友人・知人)にいるかどうかによる差も検証する。

方法

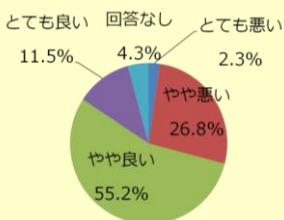
有料老人ホームおよびグループホームの入居者・保証人12,238名の登録連絡先に調査票を郵送し、調査協力に同意いただける場合には記入のうえ返信用封筒にて返送するよう依頼した。
※倫理的配慮：回答内容は個人が特定されない形で集計する旨を依頼時に通知し、承諾を得たうえで集計した。

結果 6,808件の回答(回答率55.6%、2015年11月16日現在)のうち、入居者本人以外の回答6,388件を分析

結果①入居前の意識

入居前の印象そのものについては認知症の方が周りにいるかどうかの差はないが…

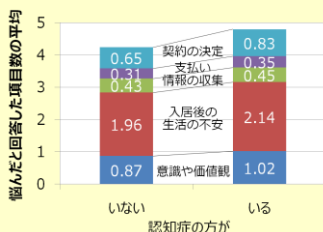
入居前の老人ホームへの入居に対する印象(全体)



入居前は、老人ホームへの入居に対し悪い印象を持つ人が3割近く

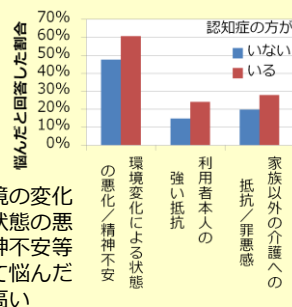
入居検討の際に悩んだことについては差あり

入居検討の際に悩んだと回答した項目の数



認知症の方が周りにいる方が、入居検討時の悩みはより多い

周りに認知症の方がいるかどうかの差が5ポイント以上だった項目

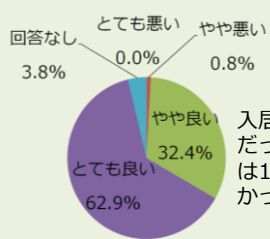


特に環境の変化による状態の悪化や精神不安等について悩んだ割合が高い

結果②入居後の意識

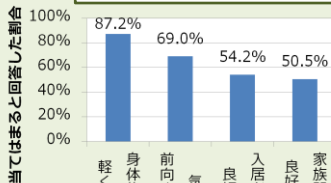
最終的な印象そのものや入居により生活に生じた変化については認知症の方が周りにいるかどうかの差はないが…

入居は良い選択だったかどうか(全体)



入居が悪い選択だったという人は1%に満たなかった

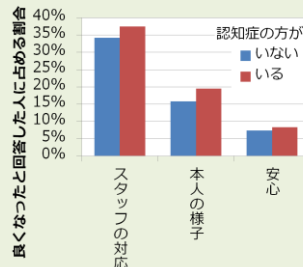
入居により生活に生じた変化(全体)



身体的・精神的負担の軽減だけでなく、入居者・家族との関係が改善したケースも多い

印象変化の理由については差あり

印象が良くなった理由(上位3位)

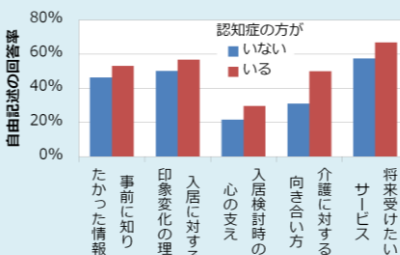


認知症の方が周りにいる方が、スタッフの対応や本人の様子により印象が良くなった割合が高い

結果③介護全般に関する意見

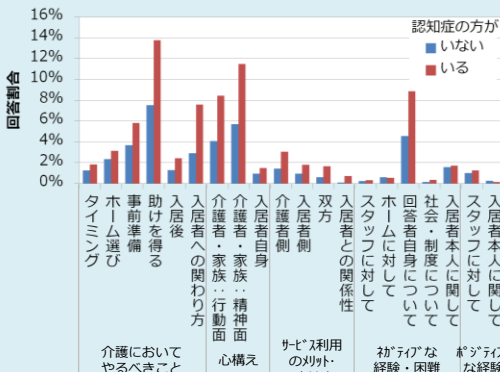
周りに認知症の方がいる方が多くの意見を出されていた

自由記述の回答率



特に介護に対する向き合い方については、認知症の方が周りにいる方が多くの意見を出されていた

介護に対する向き合い方・経験者だからわかること(抜粋)



認知症の方が周りにいる場合、記述内容も認知症に関わりの深いものが多い

- 例：入居者への関わり方
- ・ 相手をそのまま受け入れる
 - ・ 相手の立場になって考える
 - ・ 否定的なことを言わない
 - ・ 話をよく聞く
 - ・ 不安を与えない
 - ・ ゆったりとしたペース
 - ・ 優しく接する
 - など

考察

入居前の老人ホームへの入居に対する印象や、入居後の印象ならびに生活において見られた変化そのものについては、認知症の方が周りにいるかどうかによる差はほとんど見られなかった。

一方、入居検討から入居後に至るプロセスにおける悩みや印象の変化、介護全般に関する意見からは、認知症の方が周りにいる方が、より多く悩みさまざまなことを考えていることが示唆された。認知症ならではの悩みも多いため、今後、認知症の方の介護に関するいっそうの情報発信が求められる。このような情報・知識を得て、一人や家族だけで悩んだり頑張りすぎたりせず、専門家に相談したり社会資源を活用しながら介護に向き合うことで、入居者・家族双方の状態が好転すると期待される。